

EUのリンゴとナシの出荷量見込みが下方修正

FreshFruitProtal 2023年10月19日

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、8月の収穫量予測の修正を発表し、両作物でさらに減少が見込まれる。

リンゴの収穫はあと何週間か続くが、最初の地域別調整に基づいて、WAPAは2023年のEUのリンゴ出荷量が1,100万トン弱に落ち着くと推定している。これは当初の予測より約4%低い。

ナシは、イタリア、スペイン、ベルギー、オランダの予測のさらなる減少により、2021年よりもさらに低い出荷量となる。最終的なナシの出荷量は約172万トンで、当初の予測を約6%下回ると予想される。(原文のまま)

当初の見積もりは、収穫が始まろうとしている毎年8月のプログノスフルーツ会議で発表される。作柄は10月下旬まで自然や気候要因の影響を受け、出荷量と品質にプラスまたはマイナスの影響を与える可能性がある。WAPAはリリースで、従来からこうした予測の調整はわずかな率の変動であったとしている。

プログノスフルーツ会議における各国協会ネットワークの予測からの最初の見直しは、当初の見通しの発表後数週間で気候変動関連の条件が出荷量に悪影響を及ぼしたことを示している。気象被害は、EU域内各地での干ばつ、洪水、降雹、夜温の上昇、及び病虫害リスクの増加等であった。そのほか、一部の産地では降雨や夜温の低さがそれぞれ果実の肥大と着色にプラスの影響を与えた。

8月3日に発表されたEU産リンゴの最初の出荷見通しは、前年比3.3%減の合計1,141万681トンであった。ナシに関しては、EUの収穫量は昨年と比較して12.9%減の合計174万5,632トンと推定されていた。

ペルー産生食用ブドウは米国・中南米で高い需要

FreshPlaza 2023年10月19日

ペルーの生食用ブドウ業界は、中南米・米国市場での在庫水準が低いため、その市場からの初期の需要が高いと見ている。フェグリサック社社長のアレハンドロ・カルバハル氏は、「弊社ではすでに、種有り品種と赤ブドウ品種の収穫を始めている。米国市場からの需要が高まっている」と話す。(以下「」は同氏の発言)

同社はペルーのピウラ県にあり、この冬、多くの生産者の生食用ブドウ園が大雨と洪水に見舞われた。幸いなことに、同社のブドウ園は洪水に襲われなかったが、それでも大きな問題を防ぐために適切な管理を実行しなければならなかった。「今シーズンは、中南米諸国の好調な市場に加えて、米国からの需要の増加により順調に始まった。弊社に影響を与えるマイナス要因としては、年初の降雨の結果として出荷量が減少したことで、出荷が最も早いペルーの北部と中央部で30%の減少が予想される。」

同氏は、ブドウ園を設置した時の計画が局地的な洪水を回避するのに大いに役立ったが、慎重な管理を行う必要があったと説明した。「弊社の園地では、当時洪水は発生していない。水たまりの水は、ブドウの灌漑には使わず、計画に従い排水路によって毎日貯水池 - 低地にあり土質が重い - に排水された。これは、この追加工事がない砂質土壌の区画とは異なる。園地の過剰な水分は好ましくないため、確実に排水して果樹を洪水から守り、また衛生面でもカビ病 - 繁殖に適したこの地域では一般的 - が発生していない。」

今シーズンこの後で収穫する他の栽培品種はアリソン、クリムゾン等であり、白ブドウでは、オータムクリズプ、スイートグローブ等である。同社の主要な輸出市場は主に中国、韓国、ベトナム、台湾等のアジア市場であり、ヨーロッパも別の主要市場である。

同氏は最後に、ピウラ県とイカ県の両方で品質の問題があると述べた。「今日のペルーの状況は、北部地域で少なくとも30%収穫量が少ない。イカ県(南部)では、当初から15%の減少が見込まれており、全般的に品質と状態の問題があり、それがペルーの問題の一部である。」

執筆者: クレイソン・スワート